実践例　栃木県立栃木女子高等学校

日時　11月9日（木）9：40～10：25（2時限目）

教科・科目等　公民科・公共（2学年・42名）

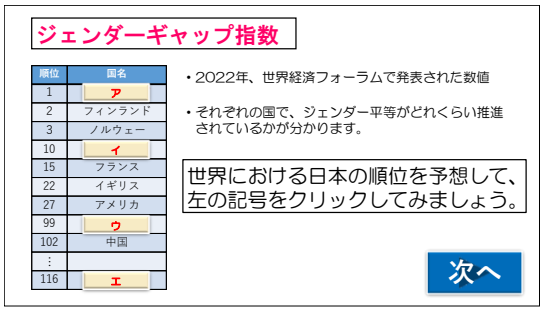
実施時間　1時間

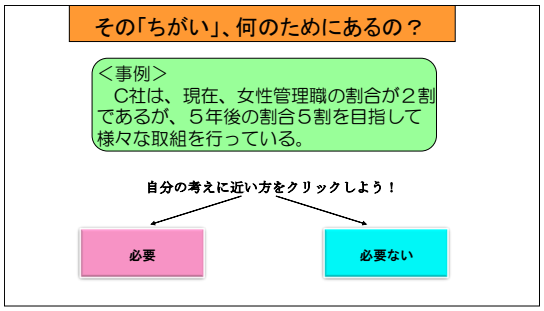
教材　公共の教科書、資料集、人権の窓（高校生用）

活用場面　1時間

●「法の下の平等」の内容で、社会における差別の問題（女性）を学習する場面で、ジェンダーギャップ指数等で日本の現状と課題を確認する。

・以下のスライドについて、ペアで話し合う。





●性別に関係なく職業を選べるようにするためにはどのようなことが大切か考えたことを書いてまとめる。

【生徒の記入例（抜粋）】

・女性が不利になる部分をサポートする制度を整えることが大切。保育園を増やす、男性も育休がとれるようにするなど様々な取組が行われているが、リモートワークなどで解決できる仕事内容はリモートワークに切り替える企業を増やしていくことで、女性の不利さを減らすことができる。

・企業などで管理職に女性がなった場合、産休や育休に入ったとしても戻ってこられるような制度やシステムをつくっておくべきだと思う。代理の人をつけておいたり秘書を増やしたり、管理職を始めから複数人選んでおいたりして、女性が管理職につくことができないという状況を変えていくべきだと思う。

・大学の学部を選ぶときに、工学や機械系の学部は、“男子”というイメージをもってしまいがちだと感じる。男女で差があるイメージをもつものは、そもそもあまり知らないまま切り捨てていることがあると思うので、学校や地域活動で触れる機会を設け、男女関係なく興味をもたせることが大切だと思う。

ペア学習の様子　→